

「野蒜築港着工 140 周年記念フォーラム」開催

明治政府による東北開発の扇の要を担う野蒜築港の計画（海～川～運河の舟運ネットワーク）をひも解き、舟運・新道・鉄道の交通網変遷の歴史をたどり、震災を乗り越える宮城・岩手・青森・秋田・山形・福島の現在を考えます。

仙台湾の港を巡る ～近世と近代の港のつくり方～

明治政府の内務卿大久保利通は、仙台湾に東北の交通網の要として港湾建設を考え、明治 9 年 6 月明治天皇の東北御巡行に先立ち仙台湾を視察し、帰京後、内務省土木局長石井省一郎とオランダ人技術者ファン・ドールンに適地調査を行わせた。ドールンは翌 10 年 2 月「野蒜築港計画書」を提出し、候補地、石巻・女川・荻浜・野蒜・寒風沢・石浜・塩釜から、宮城県の中央を流れる鳴瀬川河口の野蒜を選定する。調査から決定まで約半年のスピード決済であった。明治 11 年から工事が開始され、同 15 年に開港し一時活況を呈するが、同 17 年の嵐で港機能が支障をきたし、翌年、明治政府は野蒜港を断念し、幻の港となる。

今回、野蒜築港着工 140 周年を記念し、ファン・ドールンが選定した仙台湾・石巻湾・松島湾の港の候補地を巡るとともに、地形の成り立ちと地質・地名をひも解きながら、東日本大震災前後の塩釜港、仙台港、石巻港のライフラインとしての役割を考えます。

日時：2018 年 9 月 21 日（金） 13：30～16：30

場所：JR 仙石線石巻駅（集合場所、集合時間 13：00）→タクシー→石巻港（石巻埠頭サイロ 13：20→乗船（13：30）

見学コース（予定）：石巻湾（石巻港、北上運河、定川北（釜）閘門、北上川河口、荻浜、野蒜築港跡、潜ヶ浦、嵯峨溪）

→松島湾（鰯ヶ淵水道、東名運河、寒風沢、石浜）→寒風沢水道→仙台港→松島湾→貞山運河、中島運河→塩釜港（解散場所）

費用：交通費：各自負担、

イベント保険代：300 円を徴収します（乗船者名簿の作成のため、名前と年齢情報をお願いします）

集合場所：JR 仙石線・石巻駅改札口 13：00、

列車時刻 仙石線各駅停車 仙台 11：21～野蒜 12：23～石巻 12：47

タクシーに分乗して石巻港の石巻埠頭サイロ（13：20）へ（直線距離で 3.2 km）

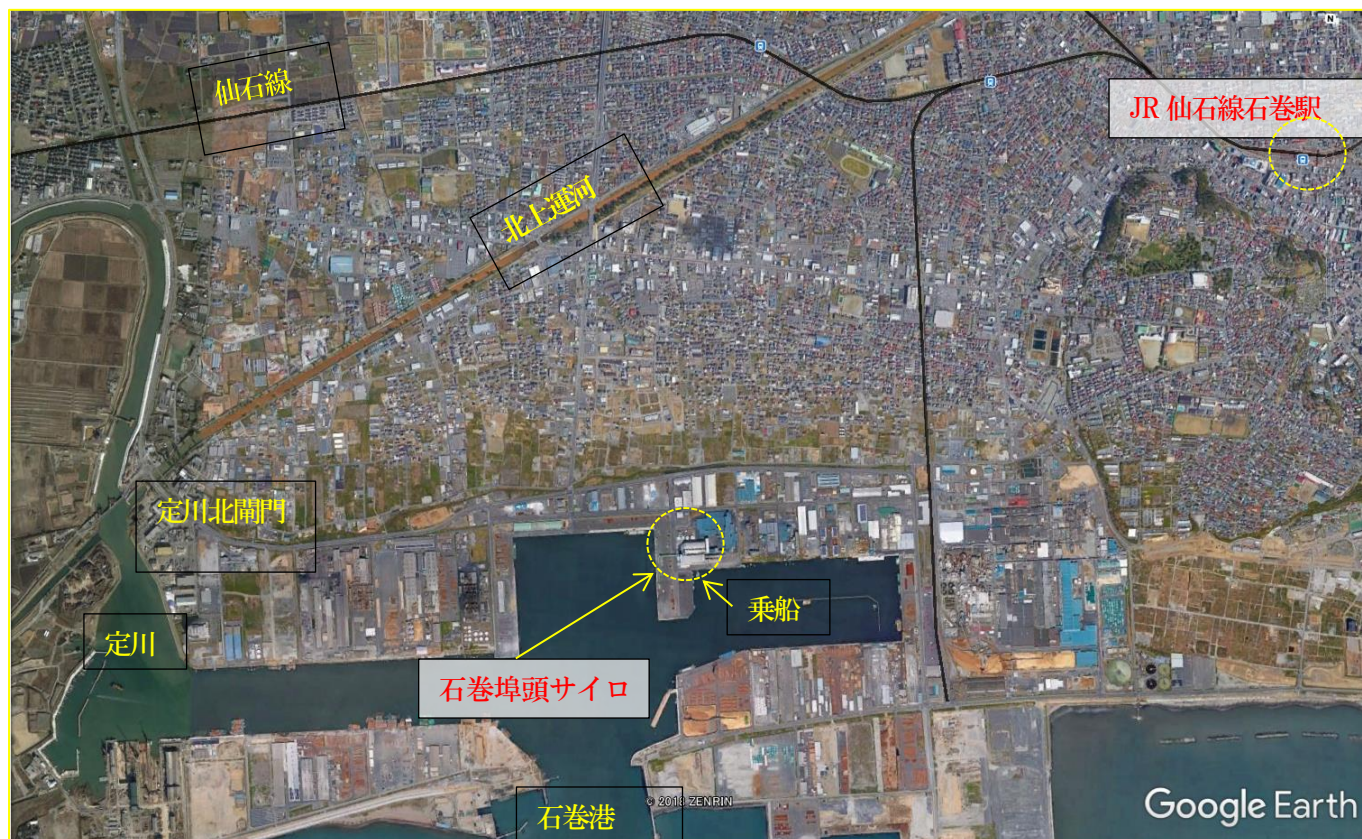
13：30 「ひより」に乗船（鮎川港 満潮 14：39 +15、干潮 07：27 -65 19：55 -20）

解散場所：塩釜港 観光棧橋付近、徒歩で JR 仙石線・本塩釜駅へ。

中止の判断：前日 9/20、16：00 に気象・波浪情報を勘案し、判断。

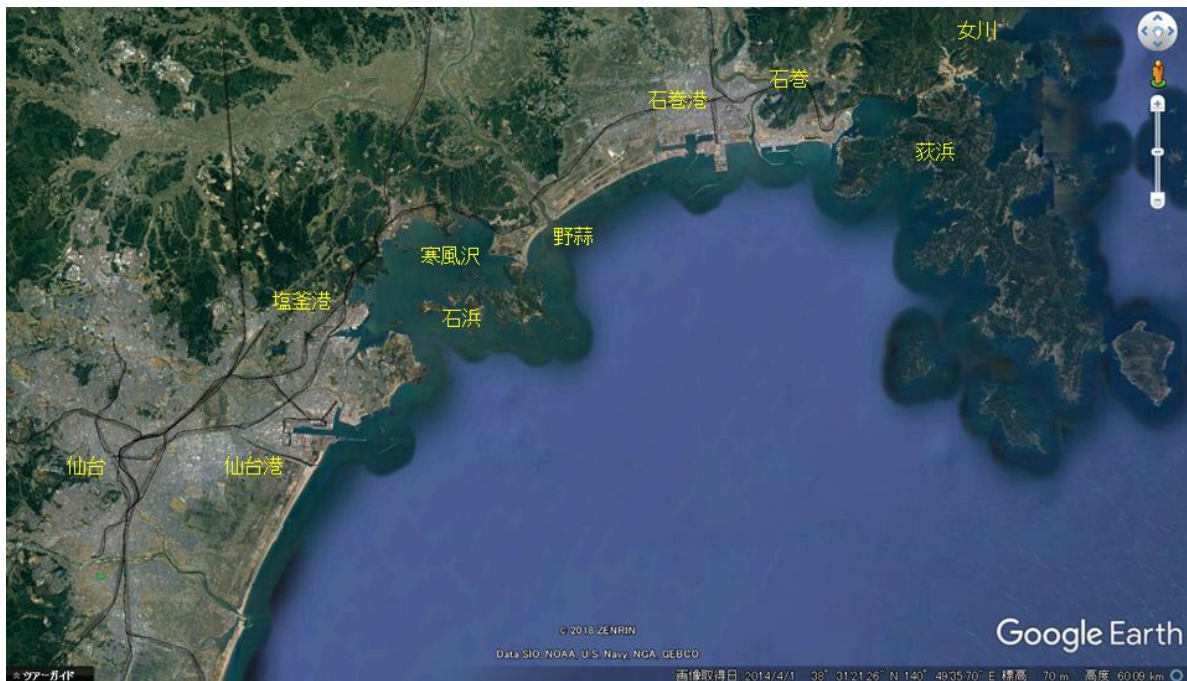
中止の場合は、9/20、19：00 までに連絡。連絡がなければ実施。小雨決行。

交流会：有志で、JR 仙石線・本塩釜駅周辺で開催。



連絡先：貞山・北上・東名運河研究会 世話人代表 後藤光亀

電話・FAX：022-725-4525（自宅） 携帯：090-4476-0810 Eメール：kokigotoh@gmail.com



○港の視察のポイント（第1部 仙台湾の港を巡る ～近世と近代の港のつくり方～）

- ・ 東北の地形の成り立ち（後藤・三浦）
- ・ 仙台湾、石巻湾、松島湾の地形・地質の成り立ちと地名（太宰・三浦・後藤）
- ・ 近世の港湾選定の根拠 ～湊と舟運、川の流れを変えた土木技術～（辺見・後藤ほか）
- ・ 明治の港湾選定の根拠 ～近代土木技術の導入期～（後藤、辺見ほか）
- ・ 昭和以降の港湾選定の根拠 ～土木技術の進展による港湾整備の変遷～（後藤、仙台塩釜港湾整備事務所ほか）
- ・ 東日本大震災前後のライフラインとしての役割と課題（仙台塩釜港湾整備事務所、後藤ほか）



野蒜築港・着工 140 周年記念フォーラム



日時：2018 年 9 月 22 日（土）13：00～15：30

場所：野蒜市民センター（東松島市、JR 仙石線・野蒜駅徒歩 1 分）

参加費：無料

明治政府が東北開発の扇の要として計画した野蒜築港。北上運河の開削から始まり、航路の砂の埋設で開削される東名運河、野蒜港に連動した木曳堀・新堀・御舟入堀の拡張改修（貞山堀、後に貞山運河）、そして、関山新道や鬼首新道の道路開削などで、宮城県のほぼ中央に位置する野蒜港と東北の各県は結ばれるはずであった。明治 15 年に野蒜港は開港、一時活況を呈するが、同 17 年の嵐で頓挫し、翌年廃港が決定し、幻の港となる。野蒜築港は失敗したが為に全国的にも有名でもある。これらの土木構造物群は極めて貴重な土木遺産として、石井閘門（後に重要文化財指定）、日本一長い運河群（北上運河、東名運河、貞山運河）、野蒜築港市街地跡が「野蒜築港関連事業」として、2000 年度、全国初の土木学会「選奨土木遺産」に認定されました。

今回、宮城県の野蒜港とつながるはずであった岩手県、山形県、福島県の方々をお招きし、現在の野蒜築港への認識と、これまでの各県との舟運の歴史をひも解き、鉄道や道路も含めた交通網の整備の変遷を振り返り、東日本大震災の経験を踏まえたライフラインとしての機能や土木遺産の楽しみ方も含め、これからの各県との連携・交流を考えます。

総合司会 野蒜築港ファンクラブ

13:00～13:10 開会の辞 野蒜塾

歓迎の挨拶 東松島市・市長 渥美 巖

13:10～13:40 基調講演

「オランダ技術者・ファン・ドールンは、日本の近代化にどう貢献したか

～幻の港となった野蒜築港、日本遺産になった安積疏水～」 日本大学工学部 / 准教授 知野泰明

13：40～13：50 休憩

13：50～15：10 野蒜築港座談会

「岩手県から見た野蒜築港 ～北上川の利活用・今昔～」

元岩手大学学長、北上川流域連携交流会 平山健一

「山形県から見た野蒜築港 ～土木県令・三島通庸の戦略～」

山形県村山総合支庁総務企画部総務課・連携支援室長 高橋 徹

「福島県から見た野蒜築港 ～南東北の土木遺産に遊ぶ～」

南東北ローカル三線旅企画・福島支部長 松田裕子

アドバイザー：国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所・所長 高橋政則

石巻千石船の会・会長 邊見清二

日本大学工学部・准教授 知野泰明

進行役：「野蒜築港に繋げ、日本一長い運河群と新道開削 ～地形から見る水の道・土の道・鉄の道～」

貞山・北上・東名運河研究会・代表世話人、野蒜塾・代表 元東北大学准教授 後藤光亀

15：10～15：25 総合討論

15：25～15：30 閉会の挨拶 東松島市・教育長 工藤晶明

サンセット・ムーンライズ・クルージング

日時：2018 年 9 月 22 日（土） 16：15～18：00

場所：東名運河 震災伝承館前（JR 仙石線・旧野蒜駅前）

定員：20 名（保険代・船の燃料費など、約 1000 円を徴収します）

野蒜築港跡・東名運河や松島湾に船を浮かべ、歴史の風に吹かれ、波に揺られ、日の入りと月の出の天空を眺め、一句詠んでみるのも一興か。時空間を越える旅に出ましょう。その後、有志で宮戸島の民宿に泊まり、海の幸、交流の幸を楽しみましょう。

- ・船（木村氏・片倉氏・大山氏）、（濡れてもよい服装で）
- ・宿泊施設（東松島市宮戸島月浜「新浜荘」、1泊2食付き 7000 円前後、とりまとめ：後藤光亀）
- ・宿泊以外の有志も含め、新浜荘で交流会を開催します。

日入：17：32 月の出：16：19 中潮 満潮→15：02 +19 干潮→8：10 -70、20：31 -30

主催：貞山・北上・東名運河研究会

共催：野蒜築港ファンクラブ、野蒜塾、東名運河の再生復興を促進する会、石巻千石船の会

後援：国土交通省東北地方整備局塩釜港湾・空港整備事務所、国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所、宮城県、東松島市、社団法人土木学会東北支部

連絡先：貞山・北上・東名運河研究会 世話人代表 後藤光亀

電話・FAX：022-725-4525（自宅） 携帯：090-4476-0810 Eメール：kokigotoh@gmail.com

